一般　質問

令和4年　6月定例会

若者を定着させるための支援を

内藤　眞一　議員

Q U・Iターン者が町を離れるのはなぜ

本町は、令和3年度の「住みたい田舎ベストランキング」において、若者世代が住みたい田舎部門で第1位、子育て世代が住みたい田舎部門で第1位など、上位にランキングされた。

多くの人が本町に移住・定住している一方、本町から離れるケースも相当見受けられる。離町の理由は何か。

A 能力・資格を生かす職種が少ない

町長　塚原　隆昭

「住みたい田舎ベストランキング」では、常に上位ランキングされている。

本町の住みやすさのポイントは3点。

①夏は比較的涼しく、冬はスキーが楽しめる高原のまち

②出産から育児や教育関連まで、絶え間ない子育て支援

③セミオーダー式の賃貸住宅など多様な住宅支援

本町におけるU・Iターン者の定着率は約60％であり、一定の定着率は確保している。

島根県の意識調査では、他地域へ移りたい理由として、生活の利便性向上と仕事の都合の2つの回答が多かった。

本町においては、自分が持っている能力や資格を生かせる業種や職種が少ないという理由が多い。

Q 定住には収入の確保を

最終的に本町を離れた理由は、収入の問題だと思う。例えば、リースハウスによる新規就農は、3年間は月15万円の補助があるものの、その後に農業だけで15万円の収入を得ることは大変だ。

町は、より多くの応援をしないと定住の増加は困難だ。

また、収入確保には販売対策が不可欠だ。町内農産物の販売に力を入れるプロジェクトチームを設置する考えはないか。

ぽたんの郷

A 「新規就農支援チーム」で支援を

町長　塚原　隆昭

県の調査でも収入の問題は上位に挙がっているし、本町でも課題の一つであると感じている。

本町では、県・JA・町などで構成した「新規就農支援チーム」が、月1回の会合を開催しながら、農業者として自立できるよう助言・指導を行っている。

今後も、この支援チームを中心として、他の関係機関や庁舎内の各部局との連携を図りながら、収入の確保による定着が図れるような指導・支援を継続したい。

オンライン診療への取り組みを

安部　丘　議員

Q オンライン診療の提供を

新型コロナウイルス感染症拡大に対応するため厚生労働省は、令和2年4月からオンライン診療の一時的な規制緩和に踏み切り、今年度から恒久化するよう制度を改正した。

県内46病院の内23病院がオンライン診療を提供する病院として届け出をしているが、飯南病院は含まれていない。

病状が安定している患者にとって、オンライン診療は大きなメリットがある。仕事の都合で病院に出向く時間が取りにくい若者や、バスを何度か乗り換え、大変な時間と労力をかけて通院している高齢者にとって、通院する回数を減らすことは、受診する負担の軽減に直結する。

本町もオンライン診療を提供してはどうか。

A 可能な範囲で対応

町長　塚原　隆昭

飯南病院では、感染対策の一つとして定期受診をされている患者で、電話による診察が可能な方には、来院しなくても電話応対での診療や薬の処方を行っており、令和2年度から3年度で、461件280人が薬の処方を受けられた。

医師の体制等から、オンライン診療専用枠を設けるなど、恒常的な運用はできないことから公表は控えている。

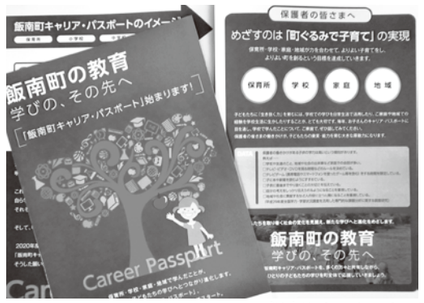
当面は可能な範囲で対応し、今年度中に策定する病院経営改革プランで検討していく。

Q 学力調査結果評価と改善は

県は、2月19日に学力・学習状況調査の結果を公表した。

学力調査では全学年で全国平均を下回り、学習状況調査からは「家庭での学習時間が減少傾向にある」と課題を挙げている。

本町の評価と改善に向けた取り組みを問う。



飯南町キャリアパスポート

A 本町の強み生かす

教育長　大谷　哲也

小学5・6年生は国語と算数。中学1・2年生は国語、数学、英語で調査が実施され、本町は全国平均を下回る結果となった。

対策として、児童生徒それぞれが「もう少しずつ頑張れる」ような指導体制が必要で、派遣指導主事と連携し進める。中学生の学習支援館の利用促進も必要。

本町の児童生徒は「話し合いの中で自分の考えを深め、ほかの学習に生かしている」という自己評価が非常に多い。ICTの活用で児童生徒の考えが瞬時に共有でき、意見交換やまとめ時間を十分にとれた結果と分析している。

ICTを活用した授業、小さな町だからできるきめ細かなサポート。こうした本町の強みを生かしていく。